

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：オハナ上永谷保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：揚山 武篤	定員（利用人数）：90名	
所在地：〒233-0012 横浜市港南区上永谷1-38-18		
TEL：045-849-1261	ホームページ： http://kiyukai.or.jp/ohana_kaminagaya/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2006年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 葵友会		
職員数	常勤職員：20名	非常勤職員：12名
専門職員	（専門職の名称）：名	栄養士：3名
	保育士：21名	幼稚園教諭：19名
	看護師：1名	子育て支援員：1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：遊戯室
	居室：2歳児室	設備：調乳室
	居室：3歳児室	設備：沐浴室
	居室：4歳児室	設備：事務室
	居室：5歳児室	設備：相談室
		設備：休憩室
		設備：更衣室
		設備：トイレ
	設備：駐車場	
	設備：園庭	

③理念・基本方針

<法人理念>

私たちの心の出発点は、すべての方を“尊重する”ことです。

<保育園理念>

オハナは家族 みんなが笑顔あふれる居心地のよい場所に

オハナ保育園は、未来羽ばたく子ども達の生きる力をひとりひとりのびのびと育みます。

<保育方針>

「わらって、あそんで、おおきくなるよ、心あわせて」

1. 乳児期より情緒の安定を図るため、ひとりひとりとゆったり関わり、笑顔を交わす。
2. 生活の中で遊びながら学ぶこと、成長することを楽しめる、上質な環境を整える。

3. 自分と未来を信じ、人間関係の基礎づくりをする。

<園目標>

1. いろいろなことに挑戦できる子
2. 自分も友達も大切に思える子
3. 食べることに興味関心のある子

④施設・事業所の特徴的な取組

<オハナ上永谷保育園の特徴的な取組>（基本情報Ⅰ-3の記載事項）

- 500坪という敷地を有効に使い、年齢別にゆったりと過ごせる保育室、広い遊戯室を備えている。
- 園庭が2つあるため、あそんでおおきくなる、という方針にマッチしており、子どもが十分に体を使って遊べる設備が整っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年05月11日（契約日） ～ 2024年01月09日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

【オハナ上永谷保育園の概要】

●オハナ上永谷保育園は、社会福祉法人葵友会（以下、法人という。）の運営です。法人は、平成17年及び平成18年に特別養護老人ホームたまプラーザ倶楽部、認可保育所オハナ新羽保育園、そして、認可保育所オハナ上永谷保育園を開設し、現在、特別養護老人ホーム1施設、デイサービス2事業所、保育所4園を運営し、地域の福祉サービス貢献に尽力しています。基本理念は、法人の心の出発点として、全ての方を「尊重する」ことに置き、「人間尊重」を重んじ、高齢者施設等に入居されている利用者、成長していく子どもたち、働いてくれている職員、そしてその人々に関わりを持つ人、全てが「尊重される人生」を送るべきと考え、理念の根幹としています。そのためには、一人ひとりの限りある力をいかに有効なものに振り向けることができるかを重んじ、誰かが困っているならば一緒に考え、解決をしていきたいと考え、交わる全ての人たちの間に生まれる信頼感を大切にしています。オハナ上永谷保育園もこの方針に沿って保育に当たっています。

●オハナ上永谷保育園は、子どもにとって居心地の良い関わりと生活の場であることを基本に置き、子ども一人ひとりを大切に、心が通じ合う関係を作ることを保育の土台としています。子どもが安心・安定できる大人との関係性・環境の下、温かな木の空間が広がる保育室では興味・関心を引き出せるコーナーや、木のぬくもりを感じられる良質な玩具を取り入れ、子ども一人ひとりを大切にしたいのびのびとした保育を実践しています。また、「オハナえほん文庫」を設け、乳・幼児期に読むべき感性豊かな絵本を取り揃え、保護者と共に本育を推奨しています。

●オハナ上永谷保育園は、横浜市営地下鉄ブルーライン上永谷駅から徒歩12分程歩いた閑静な住宅街の中に位置しています。また、神奈川中央交通のバス停「上永谷住宅入口」が園の目の前にあり、上大岡駅や戸塚駅へのバスでのアクセスも便利です。園舎は鉄筋コンクリート造り2階建てで、1階部分はエントランスと駐車場を設け、駐車スペースは12台程度の駐車が可能です。保育室と事務所は全て2階の位置づけですが、土地の傾斜

を利用し、道路の高さと2階が同じ高さになっており、有効的な造りとゆとりある環境が整備されています。園庭はかなり広く、乳児園庭と幼児園庭に分かれて使用ができ、子どもたちは、楽しく、元気に、のびのびと一日を過ごしています。

◇特長や今後期待される点

1. 【間取りを活かした保育】

オハナ上永谷保育園は、500坪の敷地に2階建てのゆとりある園舎で、2階部分に事務所、給食室、全ての保育室があることでワンフロアに収まり、全体が見渡しやすく、園児が担任以外の職員と顔を合わせる機会も多いアットホームな保育園です。子どもたちは生活の場という意識を園全体へと広げていくことができ、興味・関心の幅も広がります。給食室も保育室に続く廊下から調理の様子・姿が見え、大人たちが自分たちの生活に関わり、見守ってくれている安心感・信頼感が育まれる環境があります。子どもたちは、クラスを超え、異年齢の子どもとも自然と交流が生まれ、思いやりの心とコミュニケーション力を高めています。保育の面においては、互いのクラスを気かけやすく、特に配慮を要する子どもがいるクラスの場合、必要に応じて速やかにヘルプに応じることができる等、職員間で全体を意識・配慮する視点が培われています。もう一つの特長である園庭は、乳児園庭と幼児園庭に分かれた広い敷地を有し、歩き始めの乳児でも安心して園庭を利用することができ、それぞれの年齢に応じて、のびのびと体を動かし安全に遊ぶことができ、野菜の栽培も積極的に行っています。また、1階の駐車スペースは12台も駐車ができ保護者にも嬉しいメリットであり、時間帯によっては子どもたちの外遊びにも利用しています。オハナ上永谷保育園は、広い敷地を有効に活用し、子どもたちが笑顔溢れる居心地の良い場所とし、人との関わりを自然と育める環境を整えています。

2. 【受入れる姿勢の保育】

法人理念での、全ての方を「尊重する」ことをベースに、保護者に寄り添い、不公平のないよう、どれだけニーズに応えられるかを念頭に置いて保育に臨んでいます。一時保育も積極的に受け入れ、障害をもつ子どもやアレルギー疾患のある子どもも一様に受け入れ、該当児を担当する職員だけでなく、園全体として全職員で情報共有を行い、携わるようにしています。在園児の保護者に対しても、掲示板や配布物を通じて、疾患やアンケートのフィードバック等、情報を全家庭へ公開し、全体で共有・受容する方針とし、理念の1つである「家族」を具現化しています。また、子どもについての不安・相談についても、いつでも聞く姿勢を備え、早急に対応し、土曜保育の就労証明の提出を不要とし、行事の日の保育も受ける等、制度の面でも保護者を支援する体制としています。保育士の行動指針では、保護者対応について項目を設け、「保護者への対応と支援は園の安心感につながり、それが子どもへの良い影響になる」と示し、どのように保護者に接するのか、どのように伝えるのか等、話し合った内容が記載されており、園長をはじめ、全職員が保護者・子どもを受け入れ、受止める姿勢が窺えます。オハナ上永谷保育園が子どもにとって居心地の良い関わりと生活の場となるために、保護者に対しても細やかな心配りが成され、「保護者と一緒に子育てをしていきたい」という保育士の言葉もありました。そうした姿勢は、地域の親子に対しても園庭開放等を通じて向けられており、年1回、地域のボランティアの紙芝居を一般公開にして地域の親子にも楽しんでもらう等、子ども・保護者・地域の人を受け入れ、信頼関係を深める取組を継続して実践しています。

3. 【人材育成への取組】

オハナ上永谷保育園では、長年にわたって主任を務めていた職員が定年退職した後は

主任職を定めず、副主任を3名とし、指導的立場の人材育成の充実を図っています。副主任3名にはキャリアアップの研修以外にも管理者向けコーチングの知識を身に付けてもらい、「人を育てる」意識を養うよう取り組んでいます。現在、職員の構成は経験値の高低があり、中堅職員の層が希薄な為、若い職員を中堅へと育成する取組を進めています。具体的には、「自分が活躍できるのはどういう職場か」、「自分の得意なことは何か」「どうやって発揮するか」「どれだけできるか」を自分に問い・考え、発表することで、他職員が傾聴し、共感し、自己承認ができるよう、園長、副主任が中心となって育成に尽力しています。インスタグラムやICT化は若い職員が得意とする分野でもあり、その担当を任せる等、園長は人材の活用法と育成を真摯に考え実行しています。また、保育日誌や月案の手書きを廃止し、iPadやAndroid端末を活用しコドモン（保育園支援システム）で実施する際も、自分自身の保育に落とし込んでいるか等、思考力、行動力、責任感につなげられるよう育成に力を入れています。今後も継続した取組と共に、指導的立場の職員の充実を図り、主体的に保育に臨む層の厚い中堅保育士の育成に期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 オハナ上永谷保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

5年ぶりに第三者評価をして頂きました。委託事業者である横浜市でもなく社内でもない社外の視点で様々な角度から園を見て評価をして頂いたこと、何より全職員が日頃の保育や業務について話し合えたことで様々な気づきがあり、大変ではありましたがとても貴重な機会となりました。

具体的には職員間のコミュニケーションを円滑化させることで風通しの良い職場にしたいと考え、人材定着と育成に取り組んでいましたが、質量ともにまだまだできることがあると実感しました。一方で、ICTを利用した情報共有や保護者への発信等できている事や園庭、建物、駐車場等の設備面の充実について改めて恵まれた環境であることも再認識できました。

風通しの良い職場とは大人が自由に意見を出してひとりひとりが輝ける職場であり、そうした職場の実現があってこそ子どもが安心して自ら輝ける保育園になると考えています。

港南地区はまだまだ乳幼児の預け入れに苦勞されているご家庭も多いため、需要に応え続けることができる保育園でいられるように運営に取り組んでいきたいと思っております。

《評価後取組んだ事として》

1. 現行の職員間の連携方法を確認、協議しました。
ICTを活用しても保育の現場ではその場の声掛け、確認を怠ることで子どもの危険に直結することがあるため、どんな時にどんな言葉が必要かをケースごとに話し合う機会をこれからも持ち続けたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり